

令和2年度 岩城中学校 学校関係者評価集計表

結果 : 4=あてはまる 3=おおむねあてはまる 2=どちらかといえばあてはまらない 1=あてはまらない
 評定 : A=対象の80%以上が肯定 B=対象の70%以上が肯定 C=対象の60%以上が肯定 D=対象の60%未満が肯定

生徒 39人 保護者 34人
 教員 12人 地域 23人

項目	評価指標	評価資料	アンケート結果 (%)					評定	○(自己)評価の分析・考察・◎改善策	学校関係者評価委員からの意見	%
			4	3	2	1	無				
教育目標	「確かな学力の定着と強くてやさしい心の育成」の達成に向けて、具体的に努力している。	教職員	25	75	0	0	0	A	○ 学校の教育目標達成のための具体的な取組が、保護者や地域住民に理解されている。		99%
		生徒									
		保護者	26	71	3	0	0				
		地域住民	39	43	0	0	17				
学力・学習習慣	基礎・基本の充実を図り、確かな学力の定着・向上に向けて積極的に取り組んでいる。	教職員	45	55	0	0	0	A	◎ 教員・生徒・保護者ともに、学力向上に向けての取組におけるよい評価が多い。保護者の評価に「2」の評価もあることを忘れず取り組んでいかなければいけない。 ○ i プリによる取組が評価されている。	スマホやパソコンのゲームをやり過ぎると学力の方にも影響がある。指導が必要ではないか。	98%
		生徒	77	23	0	0	0				
		保護者	20	67	9	0	3				
		地域住民	35	48	0	0	17				
	学習習慣・学習態度（家庭学習も含む）の育成に努めている。	教職員	42	58	0	0	0	A	○ 概ね良好だが、保護者と生徒に「2」や「1」の評価がある。 ◎ 個別の補充学習を充実させるとともに、家庭と連携しながら個に応じて家庭学習の方法等について助言していく。 i プリによる取組を工夫継続し、家庭学習の充実につなげたい。		85%
		生徒	46	33	13	8	0				
		保護者	18	59	18	6	0				
		地域住民									
	生徒は、発表の仕方や表現力が身に付いている。	教職員	18	64	18	0	0	A	○ 教師・生徒・保護者の評価には、「2」も見られ、本校の課題の一つとして引き続き計画的に取り組んでいく必要がある。 ◎ ビブリオバトルなど対話的な学習を取り入れた授業改善を進めていく。定期テストに読解力・表現力を問う記述式問題を設定し変容を観察していく。		84%
		生徒	50	47	3	0	0				
		保護者	24	50	26	0	0				
		地域住民									
学習指導	指導法や指導体制の工夫・改善に努め、分かる授業づくりに取り組んでいる。	教職員	55	45	0	0	0	A	◎ 継続して新学習指導要領の趣旨に沿った指導や評価を研究していく。		98%
		生徒	82	18	0	0	0				
		保護者	41	50	6	0	3				
		地域住民	65	22	0	0	13				
	学習の充実のために、自然・文化・人など、地域の特色を生かしている。	教職員	40	60	0	0	0	A	○ 今年度はコロナ禍で、地域との交流は減ったが、教職員、生徒、保護者、地域住民すべての評価が高くなっている。 ◎ 引き続き地域の特色を生かした学習活動を工夫していく必要がある。そのためにも地域の人材を積極的に活用していく。	学校ボランティアという仕組みがあるので、広めるといいのではないか。 社会福祉協議会に「お助けマンの会」がある。意見を出すときに、声を掛けて書かせてもらった。	98%
		生徒	84	13	0	3	0				
		保護者	50	50	0	0	0				
		地域住民	65	22	4	0	9				
心の教育	望ましい人間関係づくりに努めている。	教職員	73	27	0	0	0	A	○ 道徳、授業、学校行事、部活動等を通して、教職員と生徒、生徒相互の望ましい人間関係づくりに努めている。その成果が現れている。		98%
		生徒	85	15	0	0	0				
		保護者	41	47	6	0	6				
		地域住民									
	生徒が命の大切さを実感できる教育の充実に取り組んでいる。	教職員	50	50	0	0	0	A	○ 教職員・生徒ともに高い意識を持って取り組んでいる。	中学校から降りていくときに、道路の右側にはみ出てくる子がいる。知っている人は「来るかもしれない」と気を付けてくれるが、知らない人は車もスピードが出ているかもしれない。ゆっくりと行くなどの対応をお願いしたい。	100%
		生徒	85	15	0	0	0				
		保護者									
		地域住民									
	人権・同和教育年間指導計画を立案し、実践している。	教職員	50	50	0	0	0	A	◎ 今年度は「ふれあい学習会」で3年の生徒が事前学習をし、司会することで深まりのある話合いができた。「ふれあい学習会」「人権啓発劇」などの取組を今後も継続していきたい。		98%
		生徒									
		保護者	56	38	6	0	0				
		地域住民	52	35	0	0	13				
生徒はJRC活動や積善運動に積極的に取り組んでいる。	教職員	55	45	0	0	0	A	◎ 教職員・生徒ともに高い意識をもって取り組んでいる。しかし、マンネリ化しないよう取組を見直し、改善していくべきである。		96%	
	生徒	64	28	5	3	0					
	保護者										
	地域住民										
学校体育	体育の時間や走楽タイムなどを通して、体力づくりを進めている。	教職員	55	45	0	0	0	A	○ 今年度は、走楽タイムができず残念であった。（3学期から再開している）今後も継続していきたい。 ○ 生徒・教職員ともに部活動に取り組む意識が高い。保護者も概ね肯定的である。		98%
		生徒	93	3	3	0	0				
		保護者	56	41	3	0	0				
		地域住民									
	生徒は部活動に意欲的に取り組んでいる。	教職員	75	25	0	0	0	A	◎ 部活動の方針や年間の予定等、各部の保護者会等で相互理解に努める。		98%
		生徒	93	3	3	0	0				
		保護者	56	41	3	0	0				
		地域住民									

特別活動	学校行事等は、創意工夫を生かし充実している。	教職員	75	25	0	0	0	A	○ 運動会や文化祭など生徒が中心の創意工夫されたよい活動であるとの意見が多かった。生徒も充実感・満足感を感じている。	総合的な学習の時間の計画を見直すよいチャンスである。SDGzなどに取り組むとよいと思う。是非、学校は、検討してもらいたい。 子どもたちは、公共交通機関の乗り方を知らない。岩城を出たときに困る。少人数だからこそできることもあるのではないか。そういう機会があるとよい。	96%	
		生徒	80	15	5	0	0					
		保護者	53	38	6	0	3					
		地域住民										
生徒指導	生徒一人一人にアンケートや教育相談などを実施し、全校職員が協力して、問題の早期発見・早期対応に努めている。	教職員	82	18	0	0	0	A	◎ 教員・生徒・保護者ともに、生徒指導における取組の評価がおおむね良好である。しかし、少ないながらも生徒・保護者の中には否定的な意見があるので、これらの意見も大切にし、生徒の様子にしっかりと目を向け、早期発見・早期対応を心掛けたい。		93%	
		生徒	59	21	15	5	0					
		保護者	35	41	7	0	7					
		地域住民	43	43	0	0	13					
基本的な生活習慣	基本的な生活習慣の育成に努めている。	教職員	40	60	0	0	0	A	○ あいさつについては、地域の方から、よくできているとの声をいただいている。今後も引き続きあいさつの重要性について話をしていきたい。		88%	
		生徒	41	36	18	5	0					
	進んで気持ちのよいあいさつができています。	教職員	42	58	0	0	0		A	○ あいさつについては、地域の方から、よくできているとの声をいただいている。今後も引き続きあいさつの重要性について話をしていきたい。		97%
		生徒	77	18	3	3	0					
		保護者	41	53	6	0	0					
		地域住民	65	26	0	0	9					
進路指導	将来の夢や希望について、話したり、考えたりする機会を設けている。	教職員	40	60	0	0	0	A	○ 昨年度はBであったが、今年度は教職員・生徒・保護者とも評価が高くなっている。キャリア教育の取組が生かされているようである。 ◎ 今後も地域の人材の活用を積極的に行い、キャリア教育を充実させていく必要がある。	親がどんな仕事をしているのか知らない子どももいる。岩城なら造船・土木・大工などの地元で仕事をしている方に話をしてもらおうというのいいのではないかな。	89%	
		生徒	64	21	15	0	0					
		保護者	38	41	18	0	3					
		地域住民										
学校保健安全	非常時に適切に対応できるような訓練や指導の充実に努めている。	教職員	55	45	0	0	0	A	○ 防災教育に学校、家庭、地域が連携して取り組んできた成果がはっきりと出ている。今後も継続していく。	中学校駐車場前のブロック塀に気を付けてほしい。 少人数での自転車での下校が心配である。年に数回、イノシシに会ったという話を聞く。部活帰り、今後少人数にもなり心配であるが、送り迎えは難しい。よい方法を検討していく必要がある。	99%	
		生徒	82	16	2	0	0					
		保護者	44	53	0	0	3					
		地域住民	65	27	0	0	9					
特別支援教育	コーディネーターを中心に、特別支援体制を整え、協力して支援している。	教職員	42	58	0	0	0	A	◎ 配慮を要する生徒について保護者と適切な時期に適切な回数話し合い、適切な対応ができていると思われる。今後も、全教職員が協力して支援できる体制を整えていかなければいけない。 ◎ わからないと回答している保護者が多い。学級PTAなどの機会をとらえて啓発していく必要がある。		95%	
		生徒										
		保護者	18	56	6	3	18					
		地域住民										
保護者・地域との連携	保護者や地域の人々とのふれあいを通して、信頼関係を確立している。	教職員	42	58	0	0	0	A	◎ 学校からの連絡や情報発信を密にし、信頼関係を高めていく。		94%	
		生徒										
	「学校だより」や「学級だより」等の内容は適切である。	教職員	67	33	0	0	0		A	○ 概ねよい評価であった。		99%
		生徒										
		保護者	41	56	3	0	0					
		地域住民	48	43	0	0	9					
施設設備	校舎内外の美化に努めている。	教職員	58	42	0	0	0	A	○ 概ねよい評価であった。 ◎ PTA環境整備では、多くの保護者が参加し学校の美化に協力してくださった。今後もこのような活動を継続していく必要がある。		99%	
		生徒	89	8	0	3	0					
		保護者	56	41	0	0	3					
		地域住民	52	35	0	0	13					